

# 深沼海水浴場安全対策検討業務調査結果の概要

## 1 調査内容

### (1) 海底地形調査

期間 平成 28 年 8 月 18 日～9 月 16 日

範囲 深沼海水浴場周辺（汀線[海岸線]方向 1100m×岸沖方向 650m）

### (2) 現地調査

#### ① 定点観測

期間 平成 28 年 9 月 3 日～24 日

方法 沖合い、離岸堤（消波ブロック）開口部、離岸堤内側の各地点（海底）に 1 台の波高・流速計を設置し、流れと波（水位変化）を 0.5 秒間隔で連続的に実測した。

#### ② 漂流観測

期間 平成 28 年 9 月 7 日

方法 離岸堤開口部付近（3 回）と汀線付近（1 回）に配置した浮体の移動する様子を、無人飛行機（マルチヘリコプター）による連続的な空中撮影によって追跡した。

### (3) 数値シミュレーション調査

夏季の海水浴場における平均的な波の条件（水位、波向）を用い、震災前と震災後の地形について数値シミュレーションを実施し、その結果の比較を行った。

## 2 調査結果

- ・震災前に比べ海水浴場の海底地形は全体的に凹凸が無くなり、なだらかになっている。全体として離岸堤の内側は浅くなっている。
- ・海水浴場として利用される範囲内の海中に危険物等は発見されなかった。
- ・震災前後で波の流れに大きな差はなかった。また、離岸堤岸側では離岸流は見られなかった。
- ・離岸堤岸側の両端部で、震災後において少し強い流れが発生しており、波が高い時に両端部より外側で離岸流的な流れが見られた。

## 3 安全対策

震災前後で波や流れに大きな変化がなかったことから、以前の安全対策を基礎としながら、今回の調査結果を踏まえ、遊泳区域（海水浴場範囲）の設定、波浪データを活用した遊泳可否判断基準の明確化などの安全対策が求められる。